

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	3770600173
法人名	医療法人社団 陶山医院
事業所名	有情の里
所在地	香川県さぬき市大川町多面78番地1 (電話)0879-43-5601

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価決定日	平成20年12月11日

【情報提供票より】(20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年2月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨瓦葺 造り 1階建ての1階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額500円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	500円
	夕食	400円	おやつ	0円
	または1日当たり	1,150円		

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.6歳	最低	76歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さぬき市民病院 陶山医院 安部歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、交通の便がよい上、大変静かで落ち着いた立地であり、建物内も明るく、季節を感じる小物などで心と居場所づくりがされている。地域とのつながりが強く、馴染みの知人の面会も多い。運営推進会議においても毎回前向きな意見が出され、案内を受けた地域の行事にも参加している。地域で生活していることをさらに認識してもらえよう、日常的な外出支援にも取り組んでいる。職員も意欲的で安定しており、利用者のその人らしい生活の支援を重視しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で課題となった、日常的な外出支援については、近隣にある商店街やホーム近くの散歩などに取り組んできた。ほぼ毎日の人、週に1回程度の人などさまざまなであるが、定期的に全員が外出している。記録用紙も何度も検討し、外出状況がわかりやすく記載している。外出意欲を持っている時を見逃さないようにするなど、よりよい外出支援ができるよう全員で取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で意見を出し合い評価した。初めて評価を行った職員もさまざまな事項について、改良点などを共に話し合い、意義を理解している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホーム内の現状報告だけでなく、テーマに沿って勉強会も行い、それらを含めた質疑応答やさまざまな意見が活発に出されている。参加者からは次回の議題の提案があったり、楽しみであるとの声もいただいたりしている。予定している防災訓練は、以前の会議で話し合ったとおり、一緒に行う計画で進めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関には意見箱を設置しているが、意見は出されたことはない。また、面会時には積極的に声をかけ、話しやすい関係をつくり、意見を出してもらえよう努めている。運営推進会議で家族が出された意見などは、実施できるよう検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の方から花や野菜などを収穫する都度いただくなど、ホームの存在を常に意識してもらっている。自治会に加入し、地域の行事などの案内もいただき参加している。散歩や買い物時には互いに声をかけあったり、散髪も地元の行きつけの美容院を利用するなど、地域と密接な関係を継続している。また、婦人会、老人会とも運営推進会議を通して連携を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考えた。利用者一人ひとりの個別を重視、尊重し、豊かで潤いのある暮らしができるよう理念をつくった。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやケアカンファレンス時などには、理念を判断基準として共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に参加している。日常的にも地域の方の面会も多く、花や野菜を近所付き合いのようにいただいたりしている。地元中学生や小学生などの訪問もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員全員で自己評価を行い、改善にもいろいろな意見を出し合い、取り組む中で評価の意義を理解していった。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者は、積極的に参加し、運営や利用者の状況報告などに活発な意見を出している。行事や防災訓練など意見を取り入れ計画を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議では市職員が情報提供したり、日常的にも疑問や相談に応じてくれるなど、サービス向上に協力を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、積極的に日ごろの様子を伝えている。また、ホームだよりとは別に、一人ひとりの利用者の日ごろの様子を記入した、「里からの便り」を作成し発送している。日常の様子をありのまま書くようにし、大変喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時にも意見を聴いている。運営推進会議でも意見や質問が出しやすいよう雰囲気づくりに努めている。質問などには具体的に回答している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当時は、職員の異動もみられたが、ここ数年は安定しており、利用者との馴染みの関係で支援ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があった時は、職員を適切に人選して、受講できるよう配慮している。ホーム内でもさまざまな研修を計画したり、外部での研修受講者は、他職員に研修報告を行っている。	○	研修には参加しているが、年度当初から計画した研修計画書はみられない。少人数の職員で外部研修が難しい面があると思われるが、意欲が高まる計画的な研修の取り組みに期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区の他法人のグループホームと行き来している。互いのホームの情報を交換し、質の向上に生かしている。利用者も一緒に訪問するなど交流が図れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する前に、見学に来てもらったり、食事を一緒に食べるなどしている。この体験を通して入所を決定している方が多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物などがあると自然に寄って来てたたんでくれたり、施設で飼っている犬のしぐさを見て、共に声を掛け合ったりするなど、同じ場で過ごす者として支え合い、笑い合う関係である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さまざまな場面を通して、利用者の思いを把握しよう心がけている。利用者の生活歴などを参考に、野菜の皮むきや、ぬか漬けなどをしてもらっている。男性利用者にも、本人の希望にあった暮らしを提供できるよう把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議で介護計画を作成している。家族にも参加を呼びかけ、都合のつく日に設定するようにしているが、来れない場合には、事前に意向をきいている。担当医や本人にも、意向を確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に行っている。計画の実施状況の記入様式も何度も作り直すなど、よりよいケアにつながるよう努力している。	○	介護計画書と実施状況表の関連性が説明を受けないとわかりづらい。書類は整理されているが、誰でもすぐ理解できるような方法を検討されることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	心身の変化に合わせて、グループホーム以外のサービスの利用を開始する場合にも、金額など変化があると利用しづらいこともあるため、金銭的心配なく、本人の心身の状態にあったサービスを提供できるよう配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、希望により、入居前より診療を受けていた医療機関へ通院し、継続治療を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所した時点で心身の変化に応じたサービスについて説明し、終末期についても話し合っている。また、利用中にも、必要に応じて確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関に面会者簿を置いていたが、プライバシーに触れることもあり、取り除いた。面会状況については、職員が把握している。また、居室入り口に、カーテンを設置し、ドアを開けていても、中が丸見えにならないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのこれまでの生活習慣や日々の行動を把握し、本人の希望にそった過ごし方が提供できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望などを把握し、昼食時に、ホーム独自で利用者と共に作る日があり、楽しみにしている。野菜の皮むきなどの準備や食後のテーブル拭きは、利用者が日常的に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や心身の状態を配慮して入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おやつ作りや絵手紙を書くなど、楽しみごとがある生活を支援している。商店街がホームの近くにあるため、気晴らしに買い物へも出かける時がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出による精神的安定感を重視し、可能な限り外出できるよう支援している。利用者の心身の状態に合わせて、ほぼ毎日外出している人、週に1回程度の人とさまざまなため、一人ひとりの頻度がわかるよう記録用紙にも工夫が見られた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは主幹道路に近く、交通事故の危険性が高いため、夜は鍵をかけている。日中は可能な限り開錠し、職員は利用者の行動の把握に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	以前水害の被害を受けた経験があるため、水害の対策は常にとっている。防災についても、年2回は訓練を行い、夜間を想定した訓練も行った。今年度は、運営推進会議とおして、地域の方と共に職員も全員参加で行う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立によりバランスのとれたメニューで摂取できている。食事摂取量も毎食記入している。水分の摂取量も把握し配慮している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を設けているため、全体的に大変明るい。季節の花や野菜を飾ったり、利用者が作成した手作りの飾り物があるなど柔らかい空間となっている。日差しがきつい日には、日覆を使うなど快適に生活できるよう気配りできている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを自由に持ち込んでいる。ベッドも個々の使い勝手に合わせて、さまざまな置き方をしている。収納スペースが大きく、整理しやすいよう工夫している。		